

三郎山論集5 (上田女子短期大学 日本語教育研究会・国語研究倶楽部共同機関誌) 1998.3

97年度国際化教育の実践から

楽しく、豊かに国際化を

長野市立篠ノ井西小学校 (古澤 望)

1、研究テーマ

国籍、人種を越えて、相手の特性を知り、それを受け入れ、豊かな国際感覚を身につけようと努力する児童の育成をめざす。

2、研究の経過

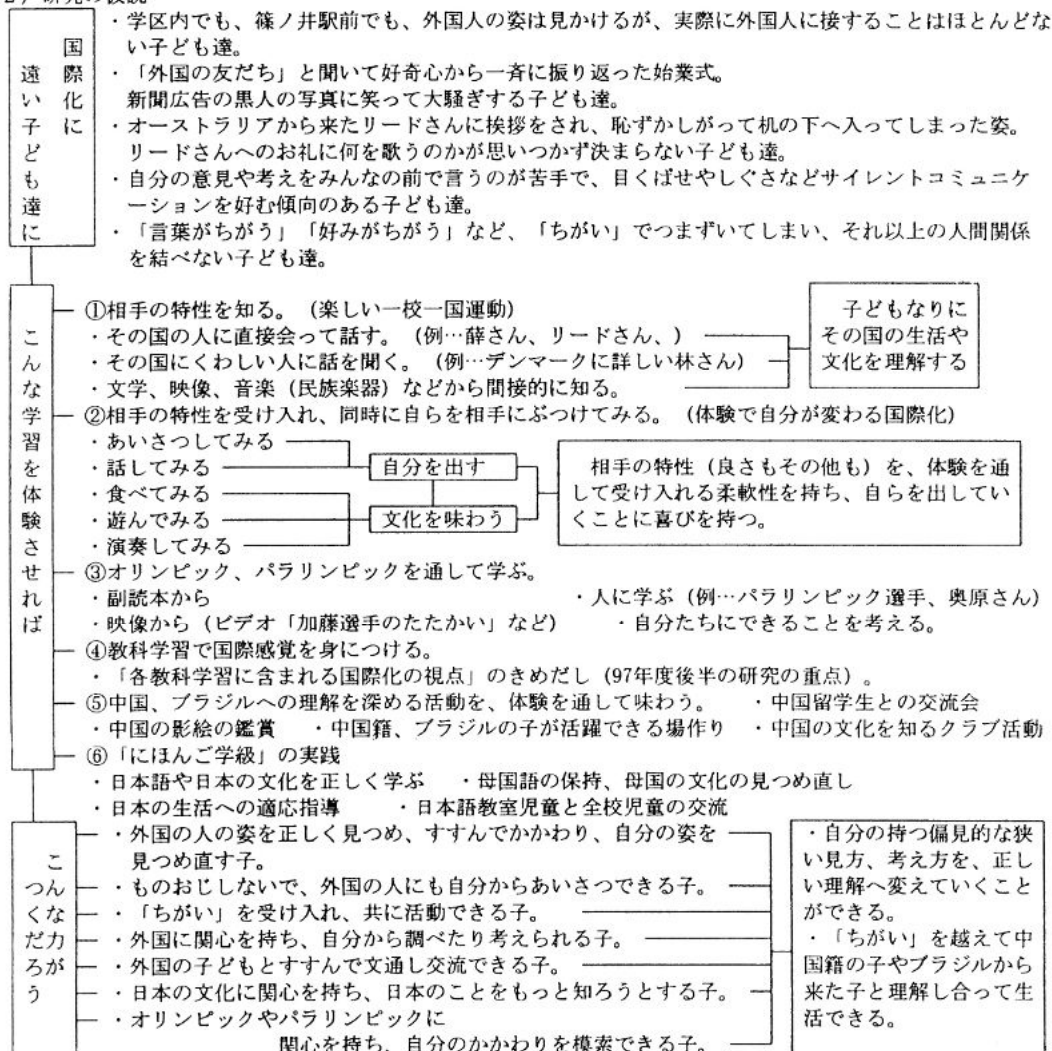
(1) テーマ設定の理由

子ども達の身近な所から急速に国際化が進んでいる。

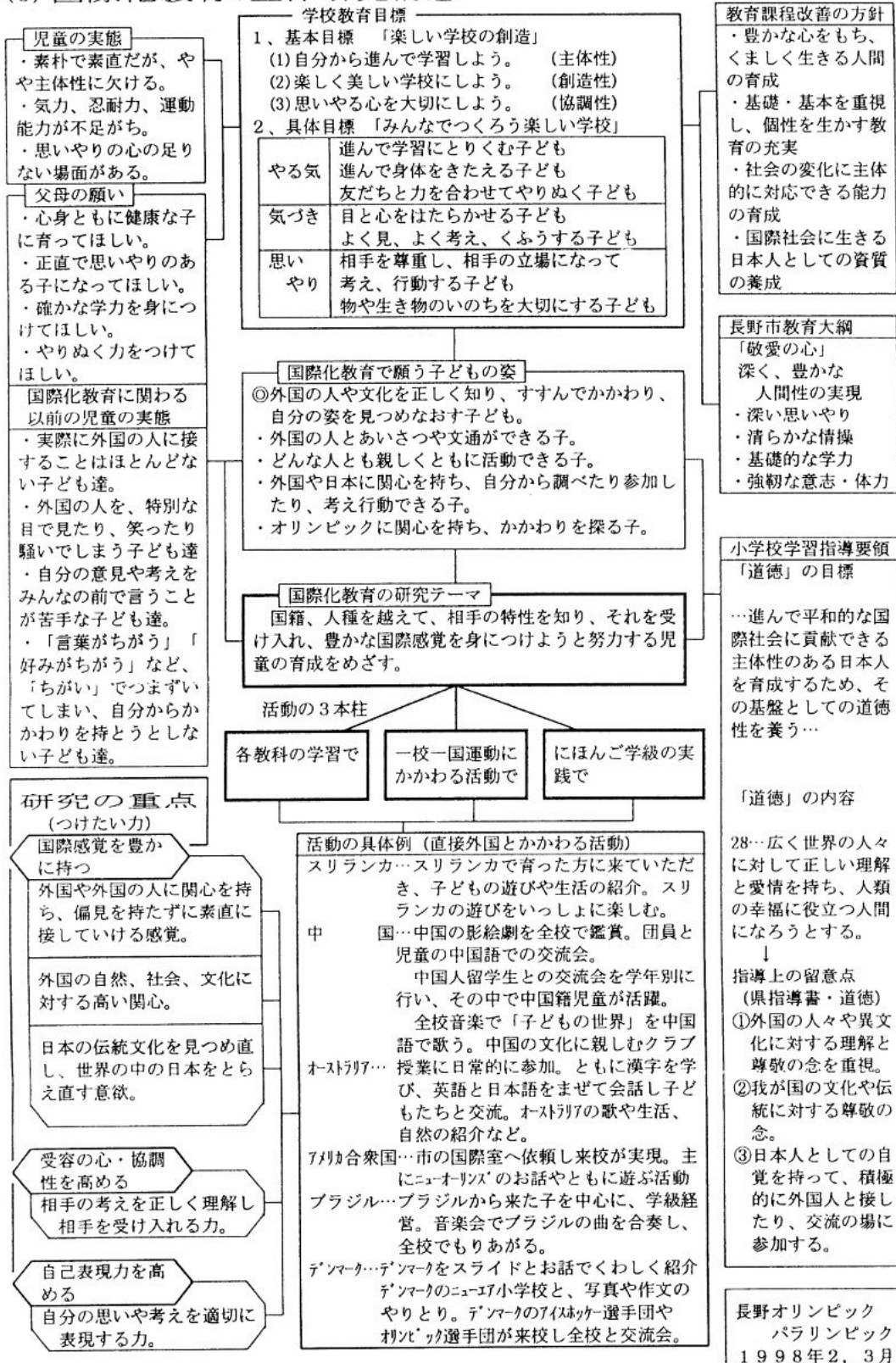
まず、3年前から編入が始まった中国からの編入生はたちまち2けたになり、ブラジルから来た子も含めて20名近くになった。また、学区内でも外国人の姿をよく見るようになった。昨年からは毎週オーストラリアの人が学校へ来てくれるようになった。何人もの外国人と接してみると、やはりちがうなあという部分と、やはりおなじだなあという部分がある。

そこで、言葉や習慣などの「ちがいを」越えて、相手の特性(良さも欠点も)をよく理解し、受け入れていくこと、さらにそこで日本人としての自分の姿を見つめ直すことを願って、このテーマを設定した。

(2) 研究の仮説



(3) 国際化教育の全体研究構想



(4) 年間計画と実施したこと

97年度 篠ノ井西小学校国際化教育の歩み

月	月別テーマ	主な活動内容
4	・年間計画作成	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語学級」が新たに中国帰国学級「にほんご学級」に改名。 ・研究会、新メンバー（11名）で発足、本年度計画作り。 ・4/14 ドロシー・リードさん来校（6月の第3週まで毎週来校） ・4/20 Mウェーブにてデンマーク選手団長ジャスパー・ラルセンさんと児童会代表が交流会、全校児童の寄せ書きをプレゼント
5	・外国の人となかよくなる①	<ul style="list-style-type: none"> ・5/19 中国留学生3名、大橋先生来校、交流会の打ち合わせ ・5/21 にほんご学級、なかよし学級交流遠足、茶臼山へ ・5/23 国際交流員ジョン・ブレイクさん来校し、通訳のお手伝い 4年へニューオリンズのお話と腕相撲、児童会国際交流委員会と交流
6	・外国の人となかよくなる②	<ul style="list-style-type: none"> ・6/2 中国留学生、白さん、李さん、孫さんと全校児童が交流会 学年別に、中国のお話、質問コーナー、歌、遊びなど… ・6/10 デンマーク、ニューエア小学校へのお返事作り開始 ・6/13 ドロシーさんとの交流、信濃毎日新聞（一面）に載る ・6/19 AETクリス・ニガードさん、来校しドロシーさんを取材
7		<ul style="list-style-type: none"> ・7/14～19 国際交流週間 テレビ放送での呼びかけなど委員会で実施 ・7/14 ジョン・ブレイクさん来校、希望クラスと交流 ・7/26、28 2学期国際交流日の打ち合わせ
8	(夏休み)	<ul style="list-style-type: none"> ・デンマーク選手団長さんよりお手紙とポスター届く ・デンマーク、ニューエア小学校への手紙の清書、英訳作業（夏休み中） ・9月の研究発表の準備、教案検討再開 ・8/31…パラボック200日前イベントに職員有志がボランティア参加
9	<ul style="list-style-type: none"> ・民族楽器のよさを知ろう ・外国の人となかよくなる③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・9/1…デンマーク、ニューエア小学校より二度目の手紙と写真届く ・9/9～中国留学生との交流会の様子を全校へテレビ放送 ・9/14…姉妹都市友好フェスティバルの各校一校一ブースへ展示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>9/26 長野市指定国際化教育研究発表会</p> <p>①授業公開 低学年 1年…「こんにちは、薛さん」 1年3組教室 高学年 4年…「民族楽器に親しもう」 第2体育館</p> <p>②研究協議 図書館にて</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・デンマーク、ニューエア小学校への手紙の完成、郵送
10	・中国のよさを知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・10月上旬…にほんご学級担任、中国へ研修視察旅行（2週間） ・10/5 「信州日本語教室フォーラム」（松本で）に職員も参加、学習 ・10/18 宮下春美先生の講演会（にほんご学級で、中国語で） にほんご学級児童、父母、卒業生計30名が参加 ・アンドラとの交流の模索…二度目の手紙発送 ・10/31 音楽会…国際化の視点を入れた選曲を含めて行なう なかよし学級と外国籍の子どもの合同演奏
11	・いろいろな国の物語を読もう	<ul style="list-style-type: none"> ・南北問題の教材化…同和教育の視点を入れて ・読書週間…外国の物語や日本の物語に親しむ ・11/6 レベッカ・ルーツさん来校、イヌイットのスライドとお話（英語） ・デンマーク選手団との交流会計画（国際交流委員会）
12	・オリンピック、パラリンピックのことを知ろう①	<ul style="list-style-type: none"> ・12/3 林春二先生のデンマークのスライドとお話（4,5,6年児童へ） ・「窪田先生の中国旅行記」を全校にテレビ放送（1週間） ・12/10,17 ジェフ・リードさん来校、いくつもの学級と楽しく交流会 ・デンマークのニューエア小学校へ国際交流委員の児童の書いたカードを送る ・中国の小学校から手紙と写真が国際交流委員会に届く ・12/16 デンマーク大使夫妻来校、交流会
1	・オリンピック・パラリンピックのことを知ろう②	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック、パラリンピック副読本の読み合わせ ・お昼のテレビ放送…ビデオ「パラリンピック・加藤選手のたたかい」 ・デンマーク選手団との交流会準備
2	2/7～22 長野オリンピック	<ul style="list-style-type: none"> ・2/2…林春二先生のデンマークのスライドとお話（職員研修で） ・2/3…オーストラリアのテレビ局「チャンネル7」が西小を取材、3名来校 ・2/7～2/15 オリンピック休業 2/9 リュージュ観戦（希望児童・職員） ・2/17 デンマーク選手団来校、全校児童と交流会
3	3/5～14 長野パラリンピック	<ul style="list-style-type: none"> ・3/10 パラリンピック観戦（全校） ・3/13 パラリンピック休業 ・1年間の研究のまとめ…教科等での国際化教育の視点のきめだし

3、研究の成果

篠ノ井西小学校の国際化教育の実際の活動は、「各教科の学習で」「一校一国運動にかかわる活動で」「にほんご教室（日本語教室）の実践で」の3本柱で進められてきた。

(1) 一校一国運動にかかわって

一校一国運動の相手国はデンマークだが、その国だけにこだわらず、具体的な交流として下記の事が行われた。一国にしぼらなかつたことで、スリランカ、オーストラリア、中国、デンマークの方々との直接交流がさまざまな形で回を重ねて豊かに展開された。

(ア) デンマークに関する直接交流

(現在5年a組)

・デンマークの小学校と写真や手紙の交流…具体的に、ニューエア小学校ハンナ・マリー先生、4年a組との文通

①1996年8月、西小の紹介文（英語）と写真を一冊にまとめ、デンマークへ旅立つ林春二先生にたくす。

②林先生のデンマークの歯科医友達の奥さんが小学校の先生をしていて、そこへ西小の手紙が渡る。

③1997年3月、ニューエア小学校より写真と手紙が届く。

④1997年8月、ニューエア小学校より二度目の写真と手紙が届く。

⑤1997年9月、西小より二度目の写真と手紙をデンマークへ送る。

⑥1997年12月、西小国際交流委員会の児童の手紙を送る。

・デンマークに詳しい林春二先生による「デンマークのスライドとお話」

96年度 1回目…職員研修として 2回目…6年生に各クラスごとに

97年度 1回目…4、5、6年児童・保護者に 2回目…職員研修として

・デンマーク・アイスホッケー選手への歓迎交流会 選手、役員約30名が来校し、1時間の交流が実現。

・デンマーク選手団長さんと児童会代表児童が直接交流（Mウェーブで）。後で礼状とポスターが送られた。

・デンマーク選手団がオリンピック競技後に来校、直接交流

(イ) オーストラリアやアメリカ合衆国の方との直接交流

・AETのリード夫妻、特に奥さんのドロシーさんが何回も来校し、全学年と交流を持つ

オーストラリアのお話（半分英語）、英語の歌、手遊びなど。カレンダーや写真などもいただいた。

いっしょに国語や社会科の勉強（'96の9月～'97の12月まで週1、2回続いた。今年も継続中）

・長野市国際室のジョン・ブレイクさんとの直接交流。

アメリカ、ニューオリンズのお話、いっしょにドッジボールや腕相撲などを楽しむ。

(ウ) 児童会・国際交流委員会の活動

・デンマークのレリーフ作り…「人魚姫とお城」をテーマに完成させた。

・オリンピックについて調べて模造紙へまとめ、全校へ発表した。

・アイスホッケー選手団との交流会の計画と準備をし、成功させた。

・デンマーク選手団との交流会の計画と準備をし、成功させた。

・国際化にかかわるアンケート活動をし、全校に発表した。

(エ) 中国のよさを知る活動

・中国の伝統的影絵劇を全校で鑑賞し、劇団の中国人の方と日本語教室の子どもが交流会をした。

・全校音楽で全校で中国語で「子どもの世界」を歌った。・音楽会ではにほんご学級児童が演奏をした。

・中国人留学生 孫さん、白さん、李さんとの、学年ごとの交流会をした。

・中国人医師、薛さんとの交流をした。

・長野県で英語教師になった帰国子女、宮下春美先生の中国語での講演会を実施。約30名が参加した。

(2) 2年次の発表会の内容（97年9月）

・授業公開 低学年 1年…「こんにちは、薛さん」 1年3組教室

高学年 4年…「民族楽器に親しもう」 第2体育館

(3) これまでの成果…「機会をとらえての直接交流で目が開かれた。」

さまざまな直接交流、体験ができ、外国の人と接することに違和感がなくなり、自然に受け止められるようになった。そして、直接交流を重ねることで、職員も児童も外国の人と交流する楽しさを味わい、言葉が通じなくても心が通じ合うことを身を持って学んだ。ブラジルから新たな転校生が来ても、まったく騒がず、自然に受け入れられる子どもたちになっていたのも、教師がむしろ驚き、成長を感じた。

他の国のことを調べたり、知ったりしようとする意欲も高まり、中国語の歌や英語の歌も喜んで歌えた。

外国の人や文化を自然に受け入れられる柔軟性が向上してきたと言える。

また、暑い国々の多数の伝統的な民族楽器に直接触れ、本物の音やリズムを楽しんだりしてそのよさを味わえた。工作などを通じて、自分たちの文化の見つめ直しもできた。

デンマークや中国の小学校との継続的な交流ルートもできた。

スリランカの聖沢さん、オーストラリアのリードさん、中国の薛さんなど、いずれも西小の父母の方に紹介していただき、交流が実現した。また、佐久の林さんのおかげで、デンマークとのつながりができた。こうした父母や地域の方々との協力関係ができたことも大きな成果と言える。

4、残された問題と今後の課題

・「各教科の学習」での国際化教育をさらに追究する。教科での位置づけを明確にする。

・さらに直接体験を豊かにする。特にアジアに目をむけた具体的な交流の展開。

・文通などのせっかく始まった活動を今後どう継続していくか。

・上からのおしきせでなく、子どもにとって本当に必要な、本当に力のつく国際化教育の追求。